

2026 年度 近畿大学病院皮膚科

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは、近畿大学病院を研修基幹施設として、浜松医科大学医学部附属病院、琉球大学病院、大阪公立大学医学部附属病院、新潟県立がんセンター新潟病院、大阪赤十字病院、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院、独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター、近畿大学奈良病院、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター、医療法人大泉会大仙病院、和歌山県立医科大学附属病院、奈良県立医科大学附属病院、医療法人医誠会医誠会国際総合病院を研修連携施設として、市立岸和田市民病院、寺田萬寿病院を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。

なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制

研修基幹施設：近畿大学病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：大塚 篤司 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎、悪性黒色腫

指導医：中嶋 千紗 専門領域：アトピー性皮膚炎

指導医：臼居 駿也 専門領域：皮膚病理

指導医：岩津 理世 専門領域：美容レーザー

指導医：洲ノ上 雅子 専門領域：アトピー性皮膚炎

指導医：藤井 一恭 専門領域：皮膚リンパ腫

施設特徴：

専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、レーザー外来、白斑外来、腫瘍外来、美容レーザー外来などを設けており、外来患者数は1日平均120名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は300名を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。皮膚科病床は22床となっており、重症薬疹、天疱瘡、乾癬、悪性黒色腫、菌状息肉症などの症例が多数あり、それらの治療を経験できる。

研修連携施設：浜松医科大学医学部附属病院

所在地：静岡県浜松市中央区半田山一丁目20番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：本田 哲也

特徴：アトピー性皮膚炎や脱毛症の臨床及び研究が盛んである。

研修連携施設：琉球大学病院

所在地：沖縄県宜野湾市字喜友名1076番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：高橋 健造

特徴：化膿性汗腺炎やカボジ肉腫などの臨床を経験できる。

研修連携施設：大阪公立大学医学部附属病院

所在地：大阪市阿倍野区旭町1-4-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：鶴田 大輔

特徴：アレルギー疾患や水疱症など幅広く研修可能である。

研修連携施設：新潟県立がんセンター新潟病院

所在地：新潟県新潟市中央区川岸町2丁目15番地3

プログラム連携施設担当者（指導医）：竹之内 辰也

特徴：皮膚悪性腫瘍の診断、治療を多く研修できる。

研修連携施設：大阪赤十字病院

所在地：大阪市天王寺区筆ヶ崎町5番30号

プログラム連携施設担当者（指導医）：八木 洋輔

特徴：一般皮膚科を中心に皮膚悪性腫瘍の診断、治療を研修可能である。

研修連携施設：社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会 富田林病院

所在地：大阪府富田林市向陽台1-3-36

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川 浩一

特徴：一般皮膚科、皮膚悪性腫瘍、皮膚外科を中心に研修できる。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター

所在地：大阪府河内長野市木戸東町2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤 麻衣子

特徴：一般皮膚科を中心に乾癬における生物学的製剤の扱いなど研修可能である。

研修連携施設：近畿大学奈良病院

所在地：奈良県生駒市乙田町1248-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大磯 直毅

特徴：一般皮膚科を中心に色素異常症を研修可能である。

研修連携施設：地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター

所在地：大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：片岡 葉子

特徴：アトピー性皮膚炎をはじめとした皮膚アレルギー疾患を多く研修できる。

研修連携施設：医療法人大泉会 大仙病院

所在地：大阪府堺市西区北条町1丁目2-31

プログラム連携施設担当者（指導医）：高田 文香

特徴：一般皮膚科を中心に研修可能である。

研修連携施設：和歌山県立医科大学附属病院

所在地：和歌山市紀三井寺811-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：神人 正寿

特徴：膠原病に伴う皮膚疾患や皮膚悪性腫瘍に関して研修可能である。

研修連携施設：奈良県立医科大学附属病院

所在地：奈良県橿原市四条町840

プログラム連携施設担当者（指導医）：新熊 悟

特徴：皮膚疾患一般の診療に加え、アトピー性皮膚炎、薬疹、ウイルス性皮膚疾患、膠原病、水疱症、皮膚腫瘍、遺伝性皮膚疾患、その他、専門的な検査・治療が必要な患者を受け入れており、豊富な経験を積むことが可能である。

研修連携施設：医療法人医誠会 医誠会国際総合病院

所在地：大阪市北区南扇町4番14号

プログラム連携施設担当者（指導医）：爲政 大幾

特徴：皮膚悪性腫瘍を中心に多くの疾患を研修できる。

研修準連携施設：市立岸和田市民病院

研修準連携施設：寺田萬寿病院

研修管理委員会に関して

研修プログラム統括責任者を中心に指導医間で適宜、専攻医の教育、指導、評価を行い、専攻医の情報を共有する。

研修管理委員会委員：

委員長：大塚 篤司 (近畿大学病院皮膚科長)
 委員：中嶋 千紗 (近畿大学病院皮膚科講師)
 委員：臼居 駿也 (近畿大学病院皮膚科医学部講師)
 委員：岩津 理世 (近畿大学病院皮膚科助教A)
 委員：鶴田 大輔 (大阪公立大学医学部附属病院皮膚科診療科長)
 委員：本田 哲也 (浜松医科大学医学部附属病院皮膚科科長)
 委員：大磯 直毅 (近畿大学奈良病院皮膚科診療部長)
 委員：八木 洋輔 (大阪赤十字病院皮膚科部長)
 委員：片岡 葉子 (大阪はびきの医療センター皮膚科主任部長)
 委員：高田 文香 (大仙病院皮膚科部長)
 委員：加藤 麻衣子 (大阪南医療センター皮膚科医長)
 委員：高橋 健造 (琉球大学病院皮膚科診療科長)
 委員：神人 正寿 (和歌山県立医科大学皮膚科診療科長)
 委員：中嶋 千紗 (近畿大学病院)
 委員：臼居 駿也 (近畿大学病院)
 委員：藤井 一恭 (近畿大学病院)
 ：大塚 篤司 (市立岸和田市民病院)
 ：大塚 篤司 (寺田萬寿病院)

他科・他職種

委員：岩崎千恵 (近畿大学病院皮膚科外来看護主任)

研修資源実績 (外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数)

	1日平均 外来患者 数	1日平均 入院患者 数	局所麻酔年間手 術数 (含生検 術)	全身麻酔 年間手術 数	指導 医数
近畿大学病院	50	14	434	47	5.3
浜松医科大学医学部附属病院	5	2	644	0	1
琉球大学病院	1	0.1	770	16	0.2
大阪公立大学医学部附属病院	1	1	974	59	0.2
新潟県立がんセンター新潟病院	20	3	1000	40	0.5
大阪赤十字病院	1	1	771	43	0.2
社会福祉法人恩賜財団大阪府済生 会 富田林病院	17.3	1.8	96	9	0.5
独立行政法人国立病院機構 大阪 南医療センター	31.1	0.6	144	0	1
近畿大学奈良病院	1	0.1	309	0	0.1
地方独立行政法人 大阪府立病院 機構 大阪はびきの医療センター	52	5	542	1	0.6
医療法人大泉会 大仙病院	62	3.4	62	0	1
和歌山県立医科大学附属病院	8	1	163	254	1
奈良県立医科大学附属病院	7	3.6	700	20	3
医療法人医誠会 医誠会国際総合 病院	10	3	214	40	0.6
合計	266.4	39.6	6823	529	15.2

D. 募集定員：8名

①通常プログラム：8名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（近畿大学病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，応募方法については，応募申請書を近畿大学病院皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先：

近畿大学病院
中嶋 千紗

TEL：072-288-7222

FAX：072-298-1500

メールアドレス：hifui@med.kindai.ac.jp

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 近畿大学病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。

2. 近畿大学奈良病院皮膚科、大阪公立大学医学部附属病院皮膚科、大阪府済生会富田林病院皮膚科、独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター、大阪はびきの医療センター皮膚科、大阪赤十字病院皮膚科、浜松医科大学医学部附属病院皮膚科、大仙病院皮膚科、市立岸和田市民病院、和歌山県立医科大学病院皮膚科、琉球大学医学部附属病院皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、近畿大学病院皮膚科の研修を補完する。

3. 準連携施設であるPL病院皮膚科では指導医不在の一人医長として最長2年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、前者は近畿大学病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。上記の連携研修施設または、指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設のいずれかで、原則として少なくとも1年間の研修を行う。

J. 研修内容について**1. 研修コース**

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携（準連携）	連携（準連携）	連携（準連携）
c	連携（準連携）	連携（準連携）	基幹	基幹	基幹
d	基幹	基幹	基幹	連携	連携
e	基幹	連携	連携	準連携	連携
g	連携	大学院（研究）	大学院（研究）	大学院（臨床）	大学院（臨床）

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：研修連携施設から研修を開始するコース。

d：最初の3年間は基幹施設で研修し、後半の2年間は連携施設で研修し、両者のバ

ランスに配慮したコース。

e：研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。

g：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 近畿大学病院皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来手術	回診	外来	外来手術		
午後	病棟回診	病棟病理	病棟外来カンファレンス	病棟	病棟	宿直※	

※宿直は1回/月を予定

2) 連携施設

浜松医科大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の皮膚病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。また研究カンファレンスにも参加し、症例研究などを報告する。皮膚科学会主催の必須の講習会を計画的に受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文（出来れば国際学術誌に）を掲載されることを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟カンファレンス	病棟	病棟回診カンファレンス	病棟手術	病棟手術病理		

琉球大学病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。近畿大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会のいずれかに定期的に参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟/外来	病棟/外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	カンファレンス/外来	外来	手術カンファレンス	手術		

※宿直は2回/月を予定

大阪公立大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンス、ダーモスコピーカンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。定期的に診断病理部とのカンファレンスを行う。月1回のアレルギー症例検討会でプレゼンテーションを行う。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来手術	外来		
午後	病棟 パッチテスト	回診 病理 カンファレンス	病棟 フックテスト パッチテスト	病棟 手術 パッチテスト	病棟		

新潟県立がんセンター新潟病院：

皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法，緩和医療を中心に習得する。この期間は富山大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
			カンファレンス	手術	手術		

大阪赤十字病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。また，地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。病棟：部長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 褥瘡回診	外来	外来		
午後	手術 病棟	手術 病棟・回診 症例カンファレンス	病棟 フットウェア外来	病棟 病理カンファレンス	手術 病棟		

※宿直は2回／月を予定

社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会 富田林病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。近畿大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会等にも参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全や感染予防に関する講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	病棟	外来	手術	外来	
午後	手術	検査	病棟 回診	病棟	手術		

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、診療、処置、手術法を習得する。病理検討会を定期的に開催する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 病棟	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来 手術	病棟	病棟 外来		

近畿大学奈良病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	病棟	
午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術 宿直※	病棟 回診 カンファ レンス 病理		

※宿直は1回/月を予定

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター：

指導医の下、アレルギー基幹病院および地域医療の中核病院の勤務医として、アトピー性皮膚炎、薬疹、食物アレルギー、蕁麻疹などのアレルギー疾患を中心に、主として重症難治性の皮膚疾患の診療、救急医療、処置、手術法を習得する。ことにアトピー性皮膚炎については、乳児から成人まで全年齢の重症患者の長期コントロールの方法を習得する。その技能として外用療法、紫外線療法、全身療法、悪化因子の除去、心理社会的調整、患者指導等すべてを習得する。すべての症例において、皮疹、病理組織、血液検査所見等から病態を洞察、理解し、治療計画をたてることができるようになることを目標とする。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	初診予診	病棟 入院検査	病棟 入院計画	外来		
午後	病棟 他科対診 カンファレンス	病棟 皮膚検査	病棟 病理検討	病棟回診 カンファレンス	病棟 手術		

*初診予診：各症例について略診し、本診察終了後、指導医と討論する。 *皮膚検査：皮膚生検、光線テスト、パッチテスト、プリックテスト等 *入院検査：負荷試験等 *入院計画：新入院患者の把握と治療計画の立案 *カンファレンス：指導医と主に入院患者の治療計画の検討、再検討を行う

医療法人大泉会 大仙病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。近畿大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来	外来	
午後	病棟 往診	病棟	病棟 往診 カンファ レンス	病棟 往診	病棟		

※宿直は0回／月を予定

和歌山県立医科大学附属病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスを行い、評価を受ける。定期的に診断病理部とのカンファレンスを行う。月1回のリウマチ膠原病科との症例検討会でプレゼンテーションを行う。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来 手術		
午後	病棟 外科回診	病棟	回診 カンファレンス	病棟 病理 カンファレンス	病棟		

奈良県立医科大学附属病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスを行い，評価を受ける。定期的に診断病理部とのカンファレンスを行う。月1回のリウマチ膠原病科との症例検討会でプレゼンテーションを行う。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	外来手術		外来手術	病棟		

医療法人医誠会 医誠会国際総合病院：

皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法，緩和医療を中心に習得する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来	手術	外来	手術	外来		

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し，17時以降，大学院講義出席，臨床研究，論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室，基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間，大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

市立岸和田市民病院

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，外来,処置，手術法を習得する。近畿大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。また、火曜午後、水曜午前、土曜午前は貝塚市民病院での外来もある。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術	外来		
午後	外来 褥瘡回診	外来	外来 カンファレンス	手術	外来		

寺田萬寿病院

地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。近畿大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟		病棟	病棟		

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

1, 2年目：主に近畿大学病院皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し、経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。

3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。

PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。

2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。

4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価を毎年保存する。

5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特にp.15～16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は所定の評価期間内に指導医の確認を受ける。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件，労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2026年3月9日
近畿大学病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
大塚 篤司